

富士紀行（87） 須走花壇

(H13/8/10 記)

富士登山駅伝が去る8月5日行われ、富士教導団隷下の普通科教導連隊チーム（チーム名：滝ヶ原自衛隊）が下馬評通りの強さを発揮して3連覇を達成した。また、富士駐屯地の戦車教導隊が9位に入賞した。おめでとう。

小生のジョギング通勤経路上、町道4122号（何と味気ない名前であろうか！）と旧国道138との交わる付近、御殿場・小山消防署須走分遣所向いの町道の両端に、何時も綺麗に手入れされたお花畑がある。今日はあの花が、明日にはあの蕾が開くかな、もうそろそろ球根が芽を出すかな等と思いを馳せ、花に心を癒されながらの毎日である。誰が如何なる目的で花を慈しんでいるのだろうか、気になっていたので調べさせて貰った。

今を去る7、8年前、須走在住の石井東一氏が、現在の須走花壇地域（町有地：面積約80坪）に不法投棄が目立ち、須走の入り口として相応しくないので、桜等の樹木を植えたいと申し出た。この申し出に対し、「お花にして頂いたら有り難い」との事であったので、花壇にしたと言うことだ。

当初は、須走の老人会「ときわ会」がお花の植えつけや手入れを実施していた（花壇の中には、『一家一年一木一花運動 花と緑のあふれる町に小山町老人クラブ』の看板が立てられている。もう一方には、「須走の老人クラブ常磐会」の銘入りの看板がある。）。けれども、何時しか石井氏御夫妻のみの奉仕となった。（因みに石井氏は10年以上も老人会の会長を務められた。）

爾来御夫婦が花壇の維持管理をしておられる。町や区長会から補助があるわけではなく、自腹を切った種や球根そして肥料の購入にならざるを得ない。それでも道行く人や須走を訪れる人々に『綺麗だな、気持ちいいね』と言って貰える事に喜びを感じ、そのことに充実感・生き甲斐を感じて今日に至っているとのことである。お花はなるべく多年草を選び、毎年綺麗な花が咲くように丹精しておられる。

地域の住民の皆がこのような心掛けでやって貰えたら地域はもっと明るく潤いがある筈だ。

更に、須走花壇から御殿場よりの精進川の橋の手前の急カーブ石垣に紫陽花の花が綺麗に咲き誇っているのを御承知だろうか。（須走は高地なるが故に、未だに紫陽花を愛でることが出来る。）この紫陽花も石井氏御夫婦が植えられ、接ぎ木を繰り返して現在の紫陽花の群落になったのである。



(石井氏と須走花壇) 山下のデジカメで撮影